松戸市協働のまちづくり協議会（第２回）議事概要

≪日　時≫　　令和８年６月７日（日）１０時３０分～１４時４０分
≪場　所≫　　松戸市役所　議会棟３階　第２会議室、特別委員会室
≪委　　員≫　犬塚　裕雅　会長、牧野　昌子　副会長、有川　かおり　委員、
　　百田　清美　委員、山口　恵理子　委員、富田　文子　委員、
　　星野　健一　委員、小北　真弓　委員
≪傍聴者≫　　７名

１　開　会
※欠席者報告・委員定数確認、配布資料確認、傍聴許可確認

２　協働のまちづくり協議会　会長挨拶

３　議題
（１）令和９年度実施分　協働事業一次選考の事前説明について
・次回第３回協議会で行う令和９年度実施分協働事業に係る第一次選考について、審査基準等を説明した。
・協働事業第一次選考（第３回松戸市協働のまちづくり協議会）を非公開で行うことを決定した。

（２）事業成果報告会について
・事務局より事業成果報告会について、流れを説明した。

（３）令和７年度実施分　協働事業・市民活動助成事業　事業成果報告会（９事業）
①
事業名：幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び冊子発行事業（ステップアップ助成）
団体名：関さんの森エコミュージアム
委　　員：古文書を読みたいと思った。有償配布分はウェブサイトで、公開してみてはいかがか。まずは配り切り、公開を目指して取り組んでほしい。
委　　員：今までの集大成として素敵な本ができたなと思う。昔のくらし館記念イベントに約３００名が参加したとあるが、参加者からはどのような感想があったか。
団　　体：古文書について意外とみんな関心をもってくれた。今の生活と古文書に書かれた内容につながりがあるということがわかるように展示をした。そういう意図が参加者に伝わって、予想以上に関心をもってもらえた。
委　　員：エコミュージアムという施設の構成について、今回の事業は中核施設にあたる昔のくらし館を充実させて、ミュージアムとしての機能を高めようという試みであ

ると思う。今後は、エコミュージアムがさらに充実するよう中核施設の周辺や道筋を整えてくれると良いなと思う。今後どのようにしていきたいかという考えはあるか。

団　　体：成果本の表紙は２０年後の関さんの屋敷を表している。そういう意味では構想は持っているが、固まってはいない。蔵ばかりでなく、屋敷全体を一体として、学芸員ではなく、会員が屋敷の説明をする。そのようにしていきたいと考えている。

②

事業名：四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業（ステップアップ助成）

団体名：小金原みんなでわくわくする会

委　　員：写真を見てもみんなニコニコ張り切って活動しているように見えた。この４年間は補助金があったが、今後はどのように継続していく予定か。水やり、草刈り、花の植え替え等、手間のかかることが多い。それが逆にコミュニケーションになる場合もあるが、先のことをどう考えているか。

団　　体：花苗は、松戸市から支給されており、非常に助かっている。小金原地区全体に活動を広げることを考えているが現在はまだ点の活動で面に広げるというところができていない。今後、町会とも連携していきたいと思っている。小金原にはたくさんの公園があるが、まずはそこに住んでいる人が楽しく集まれる公園にしたい。それ以外に、防災面でも皆で活動をシェアして展開していきたい。

委　　員：小金・小金原地区は色々な活動がされているとよく耳にする。先ほど、点を面に広げる活動をしたいと話にあったが、先日、小金方面のイベントに行った際、子供を持つ親に、人とつながれる場を探しているといわれた。お祭りなどのイベント等で活動を紹介して、地域で広がって行くと、他から来た方にも繋がり良いと思う。

団　　体：昨年度開催した夏祭りのイベントも小金原地区の子どもたちが集まったので、今後も続けていきたい。

委　　員：参加者がたくさんいて、とても良いと思った。参加者を増やしていくために工夫していることはあるか。また、活動を通して地域全体で変わったことはあるか。

団　　体：参加を呼び掛ける声掛けを続けることを考えている。例えば、子供を通して親にコンタクトを取ってもらい、参加をしてもらうようにしている。また、イベントの参加に義務感を感じないように、新しい話題や趣味の話が出来る場を設けるなど、ネットワークの機能を充実させて広がりを増やして、楽しさを感じてもらうようにする。楽しくないと、１回来ても次は来なくなってしまう、ポスター等で周知もしていくが、まずは各回を楽しく・喜んでもらうことが一番だと考えている。

委　　員：初年度の活動の特色として、SWOT 分析で自分たちの立ち位置を整理し、これからどういった活動をするのか決めたことが印象深い。４年間活動し、変わった部分もあるかと思うので、もう一度 SWOT 分析をしてみてはどうか。

団　　体： SWOT 分析をした４年前に比べ、弱みも強みも変わってきているし、世の中の状況も変わっている。前とずいぶん変わったという認識は興味がある。

③

事業名：まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業（協働事業）

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

担当課：政策推進課　SDG s 推進担当室

委　　員：収支決算書で、使用量・賃借料が予算よりも少しオーバーしているが、具体的に何が想定より費用がかかったのか。

担 当 課：主に映画祭で借りた映画の賃借料である。映画の賃借料は当初５５，０００円であった。企業の方に賃借料のルールを聞いたところ、映画を視聴する方が１００名を超えた場合、追加の徴収が発生するということを改めて知った。今回、映画祭に８９名市民の方が参加していただいた。スタッフが１０名以上参加して計１００名を超えてしまった。そこの部分が徴収され、持ち出しになった。

委　　員：たくさん集まり、嬉しいことだと思う。SDG s フェスティバルの参加目標は５０名であるが、実際は３０名参加であった。人数が目標に達しなかった理由はどう考えているか。

担 当 課：行政も協力して様々なところに PR を行った。例えば、松戸市の４５ある小学校にチラシを送ったり、ホームページや LINE での通知なども行った。日取りの問題もあると思う。もともと、夏休み中の子ども達の課題の一つにしていただければ人数が集まるのではと思って８月２日に開催をしたが、直接保護者の方へ説明の機会を設けるなどの工夫があれば人数が集まったかと思う。

委　　員：SDGs に係るところで、日常の中でペットボトルの使用量を減らしたいと思うことがある。家族・親子で会に参加し、話題を共有することで家庭の中で SDGs を進めやすい。このようなアプローチの仕方は凄く良いと思う。今後、若者や市民にも広げていきたいとあったが、市としては今後の展開をどのように考えているか。

担 当 課 ：まつど地域活躍塾つながりの会と３年間行った協働事業が昨年度で終了した。その他に、令和 4 年から学生団体と協働で SDGs の推進をしている。学生団体とつながりの会に連携してもらい、市の予算を使って市民に向けて SDGs の推進を一緒に行っていこうかと考えている。

委　　員：SDGs フェスティバルについて、先にワクワクするタイトルをつけて後に SDGs フェスティバルとつけると人が集まるかもしれないと思った。

委　　員：学生団体にイベントのキャッチコピーを考えてもらう、というようなことも今後考えられるのでは。松戸市の WEB サイトに SDGs の事例集の URL が載っている。昨年の３月から始まったとのことだが、どのくらいのアクセス数があったのか

担 当 課 ：松戸市ホームページのログイン数は手元に情報を持っていないためこの場では答られない。

委　　員：成果を見える化するための、松戸市 HP への事例集の掲載だと思うので、上手く今後に繋げて欲しい。

④

事業名：手作りおもちゃカフェ事業（スタート助成）

団体名：子育て＋プラスゆとりにっこり

委　　員：子どもを対象にしているが、年齢に応じて子どもが実施できる作業に差があると思う。参加した子どもの年齢層はどれくらいか。年齢に応じた支援やフォローは具体的にどのようにしていたか。

団　　体：参加者の年齢制限は特に設けていない。親子での参加・子どもが単独で参加する場合があるが、針糸を使う場合は基本的に親子に参加してもらい、小さな子は親が手芸をしているところを横で見てもらうようにしていた。針糸の使用は３歳ぐらいからメンバーと一緒に行うようにしていた。基本的には、スタッフ 1 人に対して親子１組または子供１人か２人で作業するような体制を整えていた。

委　　員：子供達は手先の器用さや根気強さなどに幅があり、子供と１対１でじっくり付き合ってあげると、難しくて挫折しそうなところから、達成感を味わうところまで見守ることが出来る。それを多くの子供に実践できる体制は素晴らしいと思った。

委　　員：麻ひも人形作りは、小さな年齢の子供でも取り組める。ものづくりは好きだがコンテンツがあまりないという声はよく聞くため、今後、もし活動を広げたいという事があれば、参考にしてほしい。

委　　員：助成事業を初めて実施するにも関わらず、イベント回数を計画目標より多く開催しており、参加者数も多く、素晴らしいと思う。今後はどのように展開していかれるのか

団　　体：今後の展開として、制作の場、アイデアの場、交流する場として、場の提供を世代間の格差なく取り組めればと思っている。助成事業の時はイベントを定例化して開催しやすい環境があったが、助成事業終了後は、イベントを定例的に開催する難しさがある。自分たちで切り開いて、楽しみながらをモットーに、できるところから発展することを考えている。今回の助成金で自団体名が認知されてきたので声をかけていただければ参加したい。

委　　員：手作り遊びなどは、言い方を変えれば創作・表現と言い換えることができる。福祉的な効果では、文化的処方というが、孤立・孤独・心身の健康を促したり、孤立を防いだりするような効果が文化活動にはあるといわれている。このような取り組みが広がっていけば良いと思う。

⑤

事業名：子育て中の方が手芸を楽しむ事業（スタート助成）

団体名：Handicraft circle bijou

委　　員：アンケートの実施方法と結果について具体的に聞かせてほしい。参加者同士で初

めて参加する親子もいたと思うが、居場所づくり・仲間づくりの工夫はどのようにしたのか

団　　体：アンケートでは、最初に２週間前の気持ちを思い出してもらい、達成感や孤独感、育児を楽しいと思えるか。などについて、ネガティブな感情とポジティブな感情を選択肢に織り交ぜて、アンケートをとった。物作りが終わった後、今はどう感じているか、今後どういったものを作っていきたいかなど、手芸の実施前後の気持ちを比較できるアンケートを取った。居場所づくりの工夫としては、物を作る時、作り方の紙を一切置かないようにしていた。講師がやり方を教え、できる人は先に進み、できていない人はできた人に教えてもらうなど、自然と会話が成立する環境を作った。

委　　員：参加者が自然にお互いに教え合うような、柔らかい雰囲気が醸成出来ているのだと思う。

委　　員：不登校の親御さんからの問い合わせについて、素晴らしい気付きだと思った。母親だけでなく、子供たちにとっても自分より小さい子供をお世話する・自分の母親以外の他の母親と話をするなどの関わりは良いと思うので、そういったところも上手く広げていってほしいと思った。

団　　体：兄弟で不登校という方からの参加相談があった。来たいという意思はあるが、参加するまでのハードルが高いように感じている。

委　　員：地域には子育てで孤独を抱えている人がいる。そういう方々に届くような声かけや参加してもらうための広報が大事だと思うが、どう工夫しているのか

団　　体：広報についてはとても難しかった。SNS やインスタグラムを見てもらい、フォローしてもらっている。一番参加しやすそうなイベントとしては、夏休みのワークショップで「子供と一緒なら行ける。」という声が多かった。自分達としては、間口を広くしてどのように知ってもらうのが一番良いのか考えた上で、方法の１つとして市民センターにチラシを置いたところ、それを見てフォローしてくれたり、夏休みのワークショップに参加してもらえたが、それでもなかなか届かないということは実感していた。

委　　員：情報が届かないというところは、私も共感している。“とにかく誰かと話がしたい”という方は地域にたくさんいると思う。是非、活動を続けていただきたい。

委　　員：子育てをしている方が時間を空けるのは難しい。衰退していた母親の集まりに、つながりが出来、広がっていき、再度賑わうという事例も見る。きっかけがあれば、繋がりたい・ものづくりをしたいという人たちがいると思う。活動拠点について、確保するのは難しいと思うが、どうしているか。

団　　体：活動拠点は、市民自治課の支援で市民センターを公用予約してもらい、活動をしていた。

⑥

事業名：みんなで育て　みんなでつくる　沿道の食べられる景観事業（協働事業）

団体名：エディブルウェイプロジェクトチーム

担当課：みどりと花の課

委　　員：食べられる景観づくりという取り組みが色々な人たちを引き寄せるコネクターハブのような効果を生み出していることを改めて実感している。特に情報発信をすることで見える化・伝える化していることは大切だと思う。みどりと花の課と共に始めた、新たな施策の横への展開の効果はとても素晴らしい。

委　　員：活動日数がかなりあるようだが、運営側として負担感はあるか。本事業は外からの注目もあると思うが、他自治体からの問い合わせはあるか。

団　　体：活動の日数については、まちのプランターは第２土曜日と決めている。新たに始まった小金の活動の方は第３日曜と決めている。まちのプランターの活動は２年やってきているので事前の準備がほとんどない。まちのプランター活動のノウハウを生かして小金の活動についてもコアメンバーを集めてオープンチャットでその都度情報を周知したり、簡単な打ち合わせをしているのでそれぞれ負担にならないように進めている。

担 当 課：他市町村から、直接この事業についての問い合わせはある。団体の方にも視察が来ている。

団　　体：視察や同様の活動を行いたいといった問い合わせの時は、まず、活動に参加してほしい旨をお伝えし、どういう活動をしているか実際に見ていただき話をしている。ありがたいことに、多くの問い合わせをいただいている。

委　　員：今年度はいよいよ横展開をし、他団体も真似が出来るようなテキスト・ガイドブックを作成したと伺っている。プランターがとても素敵で、参加がどんどん増えてきている印象。事業展開が年を追うごとに広がっていてとても嬉しい。松戸発信で県内にも広めていけたら素晴らしいと思っている。

委　　員：参加者提案で、ハンドクリーム作りをされたようだが、参加者の意見をうまく活用していく工夫を聞きたい。この事業の他、これまでも地域の町会・自治会などが花壇の整備をして綺麗にしている。今後、どのように松戸市のみどりを進めていく予定か伺いたい。

団　　体：ワークショップについては、参加者の１人より提案があり、自身が考案した内容で行ってみたいという意見が出た。それは是非とも協力したいということで一緒にやった。我々から一方的にするのではなく、まず、何をしたいのかを話し合うワークショップをしたりしていたので、自然と意見が言いやすく、こちらも組み込みやすい状態が作れた。

担 当 課：松戸市としては、みどりの市民力を豊かにしていきたいという思いがある。各団体の横のつながりや連携を今後活性化していきたいと思っている。

⑦

事業名：矢切地区におけるこどもの遊び場創設事業（スタート助成）

団体名：あそびパーク　やきりの

委　　員：プレーパークの休日の開催は初回２２名でその後人数は減っているように感じる。リピーターと新規の人の割合がどのようだったのか知りたい。

団　　体：プレーパークのリピーターは、年間を通して１、２家庭ぐらいいらっしゃる。開催内容をどのように工夫していくかが課題で、現在は私たちのやりたいことができていない状態なので、子どもや大人がチャレンジできることを見つけ、どのように内容を変えていけるかを考えている。

委　　員：前回のプレゼンテーション審査の時に、参加者の怪我の保険についての話と、プレイワーカーについての話が出た。活動をはじめてまだ１年ではあるが、活動を通してどのように考えているか

団　　体：活動をしてみて、現場ではそこまで保険の必要性を感じなかった。令和８年度は保険に入ろうとメンバーで話している。予算を組んでいないので、市の方に相談しようと思っている。プレイワーカーは１名、資格を取得して今年度活動している。

委　　員：保険に関しては社会福祉協議会や、他にもあると思う。保険は使わないことが一番だが、万が一の時にきちんと備えているというのが地域の人に対する安全安心につながると思う。

委　　員：矢切地区の子供祭りに参加したところ、子ども関係、シニア、地域の様々な方が参加していた。もし可能であればそういうイベントに参加するのはどうか。矢切地区の活動拠点として、今後も広めていって欲しい。プレーパークについて、知らない人もまだ多い。せっかく良い活動なので、積極的にプレーパークという言葉を広めてほしい。

⑧

事業名：みんなで創る未来の都市農業　コミュニティ農園事業（スタート助成）

団体名：まつど市民の会

委　　員：計画に対して出来なかった事があり、人手が確保できなかったとのことだが、決算書には周知のためのチラシなども記載されていないので、どのような呼びかけや工夫をしたのか。実施内容を見ると、２名でこの日数と４か所やってこられたというのは本当に大変だと思った。人手の確保、参加者の確保、情報発信はどのように行ったのか

団　　体：周知に関しては、自団体で SNS の発信ができていなかった 。現在は、発信できる人が関わってくれたので、SNS に投稿してくれて一気に５０人ぐらい手を挙げてくれている。既にホームページもできている。

委　　員：フォロワーが増えていくのは当然のことなので、実際にそこの畑で手を動かしてという参加者・子ども達は SNS も大事だが、何かしら声をかける案内チラシだとか、自治会の掲示板に貼るとか、もう少し畑の近くで顔が見えるような広報、情報提供をしていただけるよう期待します。

委　　員：今後も同じ問題意識で松戸市内の農園で継続して活動していくのか。

団　　体：継続をしていく。農業は食のインフラだと思っているので、全ての人にかかわってもらう。農業に関しては割に合わないという感覚を持っているという話をよく聞く。そこをどうするか。自分に必要なものをやったら、それが人の役に立つという感想をもっているため、今後も農業の仕組み作りをして継続していきたい。

委　　員：団体活動について、今回の助成事業以外に何か活動はしているのでしょうか。団体概要にも“松戸で良かったという人を増やす”と記載がある。松戸の中で、他に結びつきはある活動があるのか。

団　　体：本事業以外にも、教育関係の活動をしている。他に、地域、地区の活動や仕組み作りを町会等含めて周りの人と、人と人のネットワークを作る市民活動をしている。

⑨

事業名：松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業（スタート助成）

団体名：松戸の地理・歴史探訪調査会

委　　員：前回の審査の時に今後、活動の高みを目指すために専門機関との横の連携が必要と付帯意見として付けた覚えがある。県や市や、博物館、関連する専門家の人たちとの情報交換などの連携はあったか。

団　　体：松戸市だけでなく、我孫子市の方から松戸市までの道筋を調べていくという事をしているので、我孫子市の教育委員会など、他自治体の博物館とも連携している。松戸市においては博物館の館長に会い、こういう活動をしていると話をしている。情報を提供していただきたいが、情報が出てこない。他の人に話を伝えるにあたっては、当団体の者が、毎週、流山や近隣の博物館の学芸員、教育関係の先生などと話をして情報を得ようとしている。

委　　員：歴史研究において、根拠になる史料が乏しいという状態。もしかしたら、団体のみなさんが一番史料を持っているということもあるかもしれない。

委　　員：昔から子和清水を知っていましたが、歴史については皆さんの活動を通して知りました。調査研究というのは息が長い。１～２年で成果を見せるというのは難しいと思います。住んでいる人たちや、初めて知った人たちに歴史的な場所だと興味を持ってもらうことによって、地域に対する愛着や誇りを育てることにつながっていくと思います。調査研究の結果を知らせるのも大事だが、こういった活動をしていることを住民の方たちにも周知するのがよいのではと思う。

委　　員：本事業は助成金としての公金を使っているので、この活動を市民の人たちに伝え、巻き込んでいくことが重要だと思っている。報告書の中では、集会や現地案内などをやってきたとあるが、実際やってみて手ごたえはどうだったか

団　　体：関心があった方や、子和清水を知らなかった方で、もっと知りたいと言っていた方が何人かいた。まだ、調査段階なので、今年度も市民活動助成事業を実施しているが、全部の資料が集まるかは分からない状況。

5　閉会

（事務連絡）